

平成24年2月27日

北海道開発局

評価軸ごとの評価を行う治水対策案の概要

治水対策案の選定一覧表

		現行計画		河川を中心とした方策				流域を中心とした方策					
		ダム	河道改修等※1	ダムの有効活用	遊水地(調節池)等	河道の掘削	河道内の樹木の伐採	堤防のかさ上げ	雨水貯留施設	雨水浸透施設	宅地のかさ上げ・ピロティ建築等	土地利用規制	水田等の保全(機能向上)
【①河川整備計画】	ダム案	平取ダム	河道の掘削 堤防の整備 等										
【②河道改修を中心とした対策】	河道掘削案		河道の掘削 堤防の整備 等	ダムの有効活用 (二風谷ダム 操作ルール 見直し)		河道の掘削	河道内の 樹木の伐採						
	堤防かさ上げ・河道掘削案		河道の掘削 堤防の整備 等	ダムの有効活用 (二風谷ダム 操作ルール 見直し)		河道の掘削	河道内の 樹木の伐採	堤防の かさ上げ					
【③洪水調節施設により洪水流量を低減させる方策を組み合わせた対策】	遊水地案		河道の掘削 堤防の整備 等	ダムの有効活用 (二風谷ダム 操作ルール 見直し)	遊水地	河道の掘削	河道内の 樹木の伐採	堤防の かさ上げ					
【④流域を中心とした方策を組み合わせた対策】	宅地かさ上げ案		河道の掘削 堤防の整備 等	ダムの有効活用 (二風谷ダム 操作ルール 見直し)		河道の掘削 ※2	河道内の 樹木の伐採	堤防の かさ上げ			宅地のか かさ上げ	土地利用 規制	
	雨水貯留等案		河道の掘削 堤防の整備 等	ダムの有効活用 (二風谷ダム 操作ルール 見直し)		河道の掘削	河道内の 樹木の伐採	堤防の かさ上げ	雨水貯留 施設	雨水浸透 施設			水田等の 保全 (機能向上)

※1 「河道の掘削」、「堤防の整備」、「河道内の樹木の伐採」、「部分的に低い堤防の存置」「霞堤の存置」「樹林帯等」は、現行の河川整備計画の方策で、全ての治水対策案に組み合わせている。

※2 「治水対策案14(宅地かさ上げ案)」は、土地利用規制の対象区間より下流においては、ダム案を超える河道の掘削を行わない。

※3 「水田等の保全(現況)」「森林の保全」「洪水の予測・情報の提供等」「水害保険等」は、第3回検討の場資料3の4頁に示すとおり、全ての案に組み合わせることとしているため、表示していない。

【河川整備計画の概要】

■河道改修を実施するとともに、平取ダムの建設により河川整備計画の治水安全度を確保する。

- ・ 河川の流下断面積が不足する箇所において、河道の掘削、河道内の樹木の伐採、現況堤防の拡築を行う。
- ・ 河川のピーク流量を低減させるため、額平川に平取ダムの建設を行う。

■完成までに要する費用： 約370億円 ※平取ダム分の費用は治水相当分のみを計上

《事業費算定の考え方》

- ・ 沙流川で約140万m³の河道の掘削を行う。
- ・ 河道の掘削により影響がある橋梁について橋脚保護を行う。
- ・ 河道の掘削に伴う約110万m³の建設発生土の処分のための残土処分場を確保する。
- ・ 平取ダム建設予定地は、用地（民有地）取得と家屋移転は完了しており、ダム本体及び付替道路等の工事を行う。

■実施にあたっての留意事項

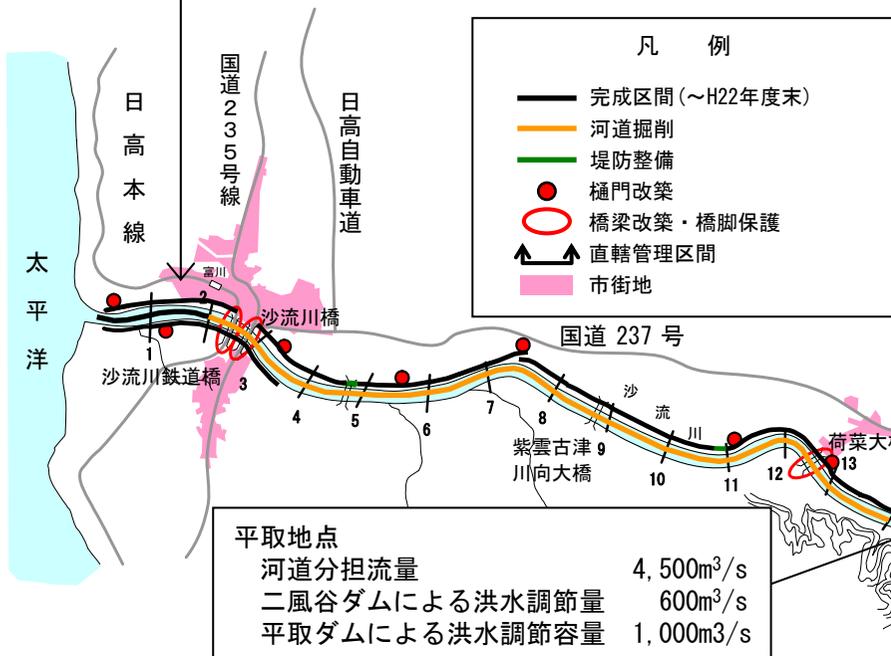
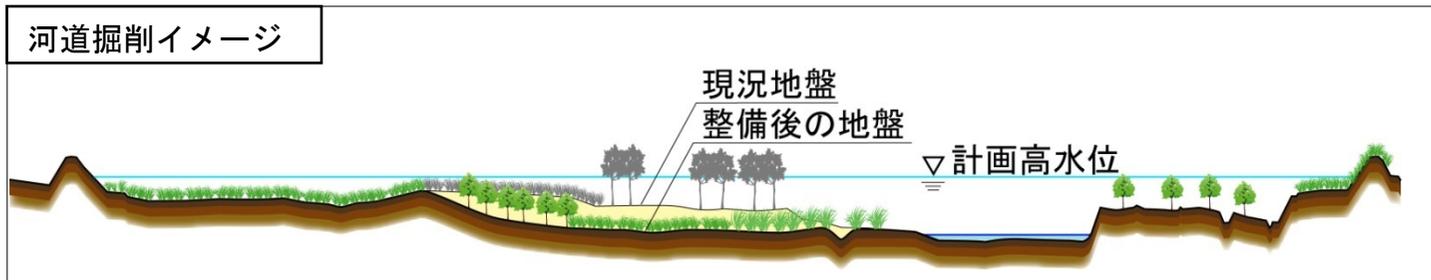
- ・ ダム完成後にダム下流の治水安全度が向上し、河道改修を行った箇所から段階的に治水効果が発揮され、治水安全度が向上する。
- ・ 民有地の買収及び家屋の移転は完了している。

ダム案 (2/2)

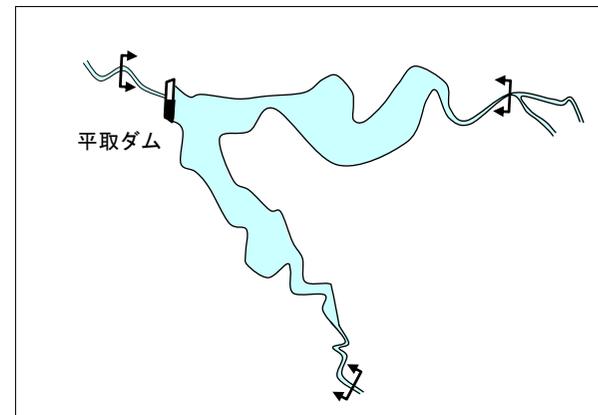
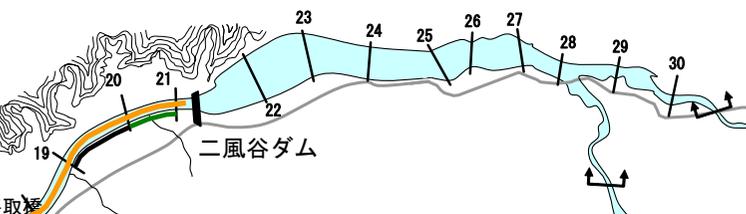
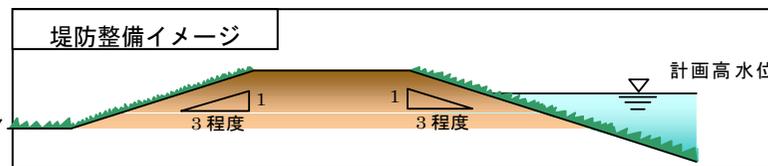
河道掘削範囲の例



河道掘削イメージ



堤防整備イメージ



平取ダム地区



二風谷ダム



平取ダム (完成イメージ)

【対策案の概要】

■河川整備計画の河道改修を実施するとともに、河道の掘削、河道内の樹木の伐採により河川整備計画の治水安全度を確保する。

- ・河川の流下断面積が不足する箇所において、河道の掘削、河道内の樹木の伐採を行う。

■完成までに要する費用： 約520億円

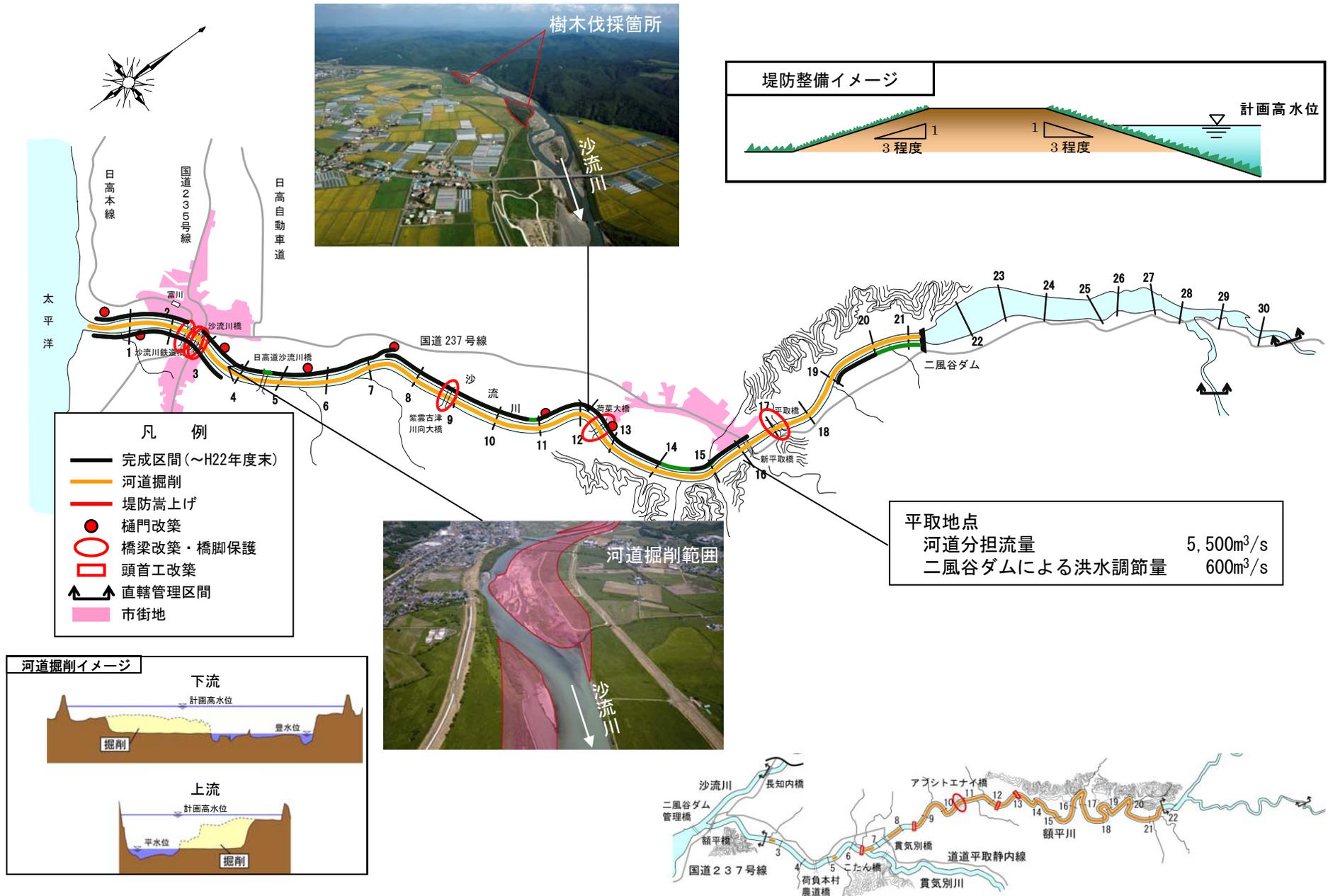
《事業費算定の考え方》

- ・ 沙流川で約430万m³、額平川で約250万m³ の河道の掘削を行う。
- ・ 河道の掘削により影響がある橋梁等の構造物は改築等を行う。
- ・ 河道の掘削に伴う約660万m³の建設発生土の処分のための残土処分場を確保する。

■実施にあたっての留意事項

- ・ 河道の掘削、河道内の樹木の伐採を行った箇所から段階的に治水効果が発揮され、治水安全度が向上する。
- ・ 河道内の対策が中心であり、新たに大きく用地買収を行う必要はない。

河道掘削案 (2/2)



【対策案の概要】

■河川整備計画の河道改修を実施するとともに、堤防のかさ上げ、河道の掘削、河道内の樹木の伐採により河川整備計画の治水安全度を確保する。

- ・河川の流下断面積が不足する箇所において、堤防のかさ上げ、河道の掘削、河道内の樹木の伐採を行う。

■完成までに要する費用： 約500億円

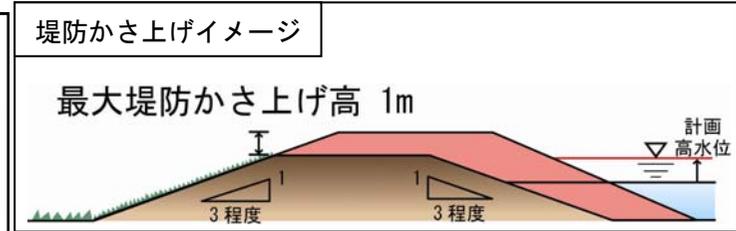
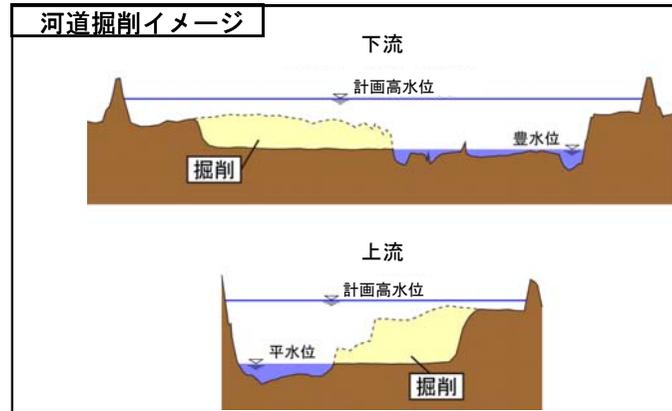
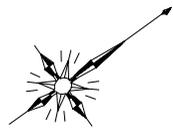
《事業費算定の考え方》

- ・沙流川で約310万m³、額平川で約250万m³の河道の掘削を行う。
- ・沙流川で最大約1mの堤防のかさ上げを行う。
- ・堤防のかさ上げ、河道の掘削により影響がある橋梁等の構造物は改築等を行う。
- ・河道の掘削に伴う約510万m³の建設発生土の処分のための残土処分場を確保する。
- ・堤防の浸透・漏水・すべりに係る必要な対策を行う。

■実施にあたっての留意事項

- ・堤防のかさ上げ、河道の掘削、河道内の樹木の伐採を行った箇所から段階的に治水効果が発揮され、治水安全度が向上する。
- ・堤防のかさ上げにより計画高水位が上昇するため、万一破堤した際、被害が大きくなるおそれがあるため、地域の合意形成が必要となる。
- ・堤防をかさ上げする区間においては内水排除が困難となり内水対策が必要となる可能性がある。

堤防かさ上げ・河道の掘削案 (2/2)



- 凡 例**
- 完成区間 (~H22年度末)
 - 河道掘削
 - 堤防かさ上げ
 - 樋門改築
 - 橋梁改築・橋脚保護
 - 頭首工改築
 - ↔ 直轄管理区間
 - 市街地

平取地点
河道分担流量 5,500m³/s
二風谷ダムによる洪水調節量 600m³/s



【対策案の概要】

■河川整備計画の河道改修を実施するとともに、沙流川及び額平川沿いに遊水地（掘込方式）を設置し治水効果が及ばない箇所においては、堤防のかさ上げ、河道の掘削、河道内の樹木の伐採により河川整備計画の治水安全度を確保する。

- ・ 河川の流量を低減させるため、沙流川及び額平川沿いに掘込方式での遊水地を設置する。
- ・ 河川の流下断面積が不足する箇所において、堤防のかさ上げ、河道の掘削、河道内の樹木の伐採を行う。

■完成までに要する費用： 約900億円

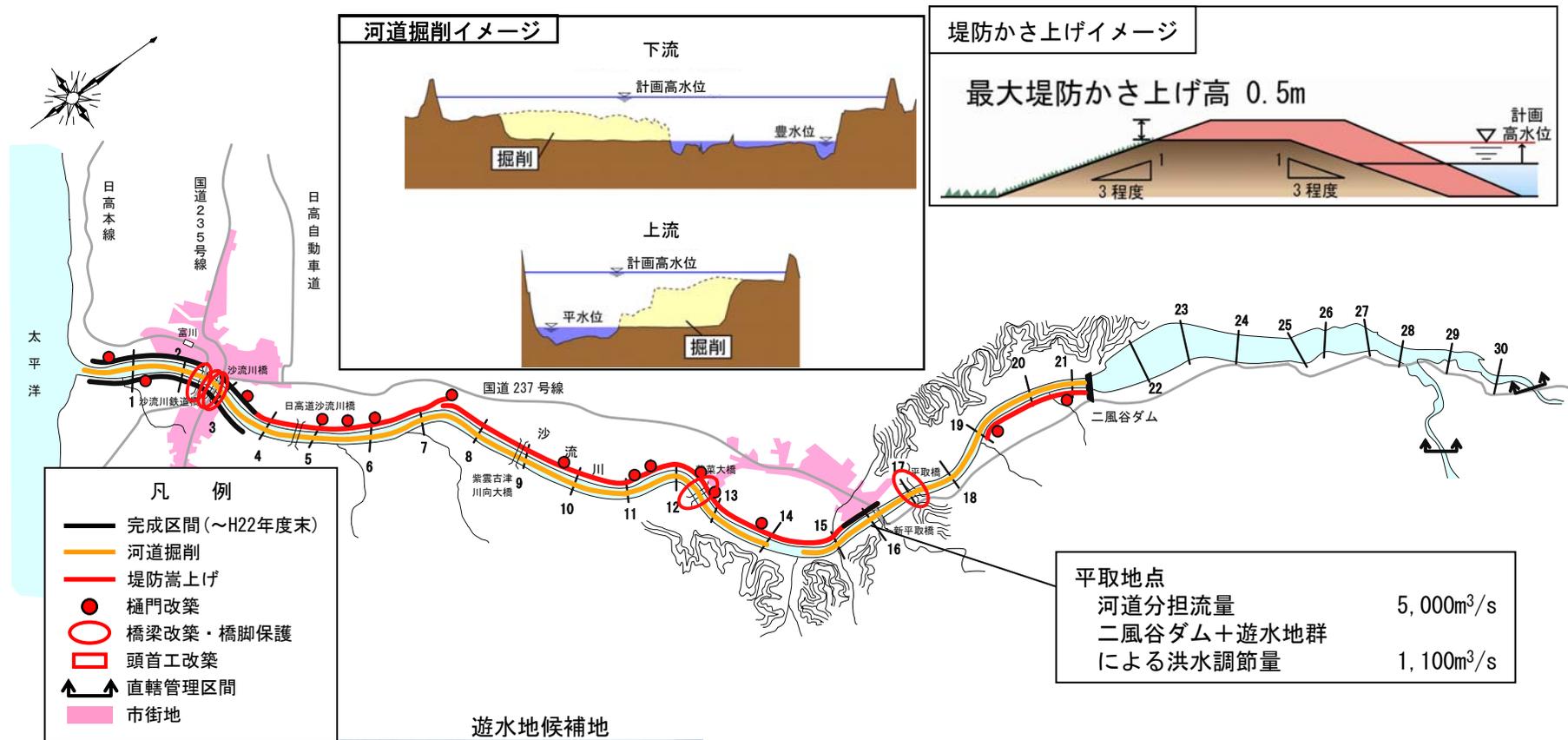
《事業費算定の考え方》

- ・ 沙流川沿いに遊水地を3箇所、額平川沿いに遊水地を5箇所設置する。
- ・ 遊水地は越流堤、囲繞堤、間仕切堤や水門、排水門等の施設整備を行う。
- ・ 遊水地群設置に伴い、家屋等の移転及び農地等の用地補償を行う。
- ・ 沙流川で最大約0.5mの堤防のかさ上げを行う。
- ・ 沙流川で約240万m³、額平川で約250万m³の河道の掘削を行う。
- ・ 堤防のかさ上げ、河道の掘削により影響がある橋梁等の構造物は改築等を行う。
- ・ 遊水地整備及び河道の掘削に伴う約570万m³建設発生土の処分のための残土処分場を確保する。
- ・ 堤防の浸透・漏水・すべりに係る必要な対策を行う。

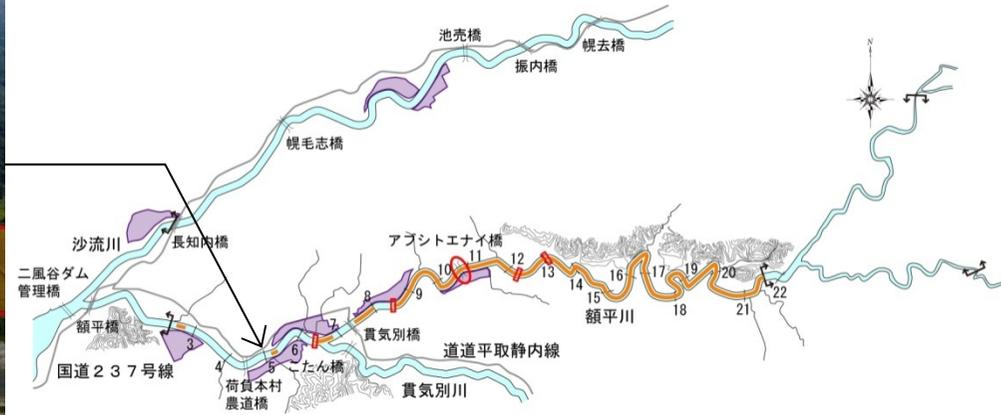
■実施にあたっての留意事項

- ・ 遊水地完成後に治水安全度が向上し、堤防のかさ上げ、河道の掘削、河道内の樹木の伐採を行った箇所から段階的に治水効果が発揮され、治水安全度が向上する。
- ・ 遊水地整備にかかる地域の合意形成や新たな補償等が必要となる。
- ・ 堤防のかさ上げにより計画高水位が上昇するため、万一破堤した際、被害が大きくなるおそれがあるため、地域の合意形成が必要となる。
- ・ 堤防をかさ上げする区間においては内水排除が困難となり内水対策が必要となる可能性がある。

遊水地案 (2/2)



遊水地候補地



【対策案の概要】

■河川整備計画の河道改修を実施するとともに、堤防のかさ上げ、河道の掘削、河道内の樹木の伐採により河川整備計画の治水安全度を確保する。また、洪水はん濫から家屋を守るため宅地のかさ上げを行う。

- ・ 河川の流下断面積が不足する箇所において、堤防のかさ上げ、河道の掘削、河道内の樹木の伐採を行う。
- ・ 洪水はん濫から家屋を守るための宅地のかさ上げを行う。

■完成までに要する費用： 約500億円

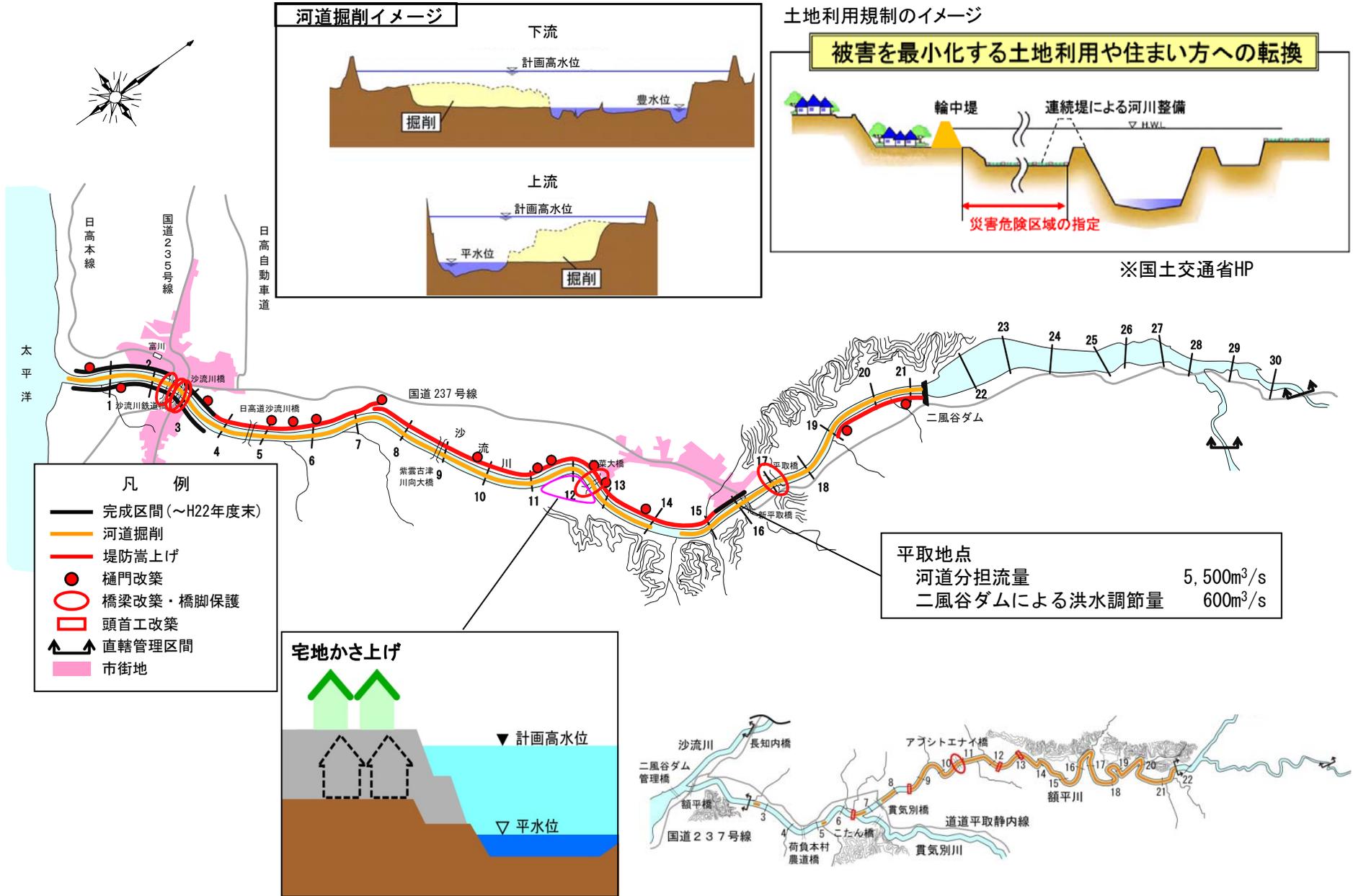
《事業費算定の考え方》

- ・ 沙流川で最大約1mの堤防のかさ上げを行う。
- ・ 沙流川で約310万m³、額平川で約250万m³の河道の掘削を行う。
- ・ 堤防のかさ上げ、河道の掘削により影響がある橋梁等の構造物は改築等を行う。
- ・ 河道の掘削に伴う約510万m³の建設発生土の処分のための残土処分場を確保する。
- ・ 又タツプ地区の宅地をかさ上げする。
- ・ 堤防の浸透・漏水・すべりに係る必要な対策を行う。

■実施にあたっての留意事項

- ・ 堤防のかさ上げ、河道の掘削、河道内の樹木の伐採を行った箇所から段階的に治水効果が発揮され、治水安全度が向上する。
- ・ 宅地かさ上げや土地利用規制について地域の合意形成が必要となる。
- ・ 堤防のかさ上げにより計画高水位が上昇するため、万一破堤した際、被害が大きくなるおそれがあるため、地域の合意形成が必要となる。
- ・ 堤防をかさ上げする区間においては内水排除が困難となり内水対策が必要となる可能性がある。

宅地かさ上げ案 (2/2)



【対策案の概要】

- 河川整備計画の河道改修を実施するとともに、雨水貯留・浸透施設の設置、流域内の水田等の保全（機能向上）を行い河道のピーク流量を低減させるとともに、治水効果が及ばない箇所においては、堤防のかさ上げ、河道の掘削、河道内の樹木の伐採により河川整備計画の治水安全度を確保する。
 - ・河川の流量を低減させるため、流域内の公園や学校（校庭）等を対象として雨水貯留施設を設置するとともに、市街地を対象に雨水浸透施設を設置する。また、流域内の水田に堰板の設置を行う。
 - ・河川の流下断面積が不足する箇所において、堤防のかさ上げ、河道の掘削、河道内の樹木の伐採を行う。

■完成までに要する費用： 約510億円**《事業費算定の考え方》**

- ・公園や学校等（31施設）を対象として雨水貯留施設の設置を行う。
- ・市街地（約3,300箇所）を対象として雨水浸透施設の設置を行う。
- ・水田約4km²を対象とし、畦畔のかさ上げ等を行い、機能向上を図る。
- ・沙流川で最大約1mの堤防のかさ上げを行う。
- ・沙流川で約310万m³、額平川で約250万m³の河道の掘削を行う。
- ・堤防のかさ上げ、河道の掘削により影響がある橋梁等の構造物は改築等を行う。
- ・河道の掘削に伴う約510万m³の建設発生土の処分のための残土処分場を確保する。
- ・堤防の浸透・漏水・すべりに係る必要な対策を行う。

■実施にあたっての留意事項

- ・堤防のかさ上げ、河道の掘削、河道内の樹木の伐採を行った箇所から段階的に治水効果が発揮され、治水安全度が向上する。
- ・雨水貯留施設、雨水浸透施設、水田等の保全（機能向上）の整備にかかる施設管理者との合意形成が必要となる。
- ・水田等の保全（機能向上）にあたっては、水田への貯留により農作物に被害が生じた場合の補償のあり方等、制度面での検討が必要である。
- ・堤防のかさ上げにより計画高水位が上昇するため、万一破堤した際、被害が大きくなるおそれがあるため、地域の合意形成が必要となる。
- ・堤防をかさ上げする区間においては内水排除が困難となり内水対策が必要となる可能性がある。

